何人殺せば済むのか

新年そうそう〝災害死〟

新労組員 斉藤さん　三池労組、抗議スト

昭和十八年の年明けとともに、早くも〝殺人合理化〟が、尊い働く者の命を奪った。犠牲者は三川鉱（岡田二郎鉱長）の新労組員＝斉藤忠雄さん（四十四才で坑内運搬工。新勝立町一丁目大砂社宅）で、災害は去る五日起きた。

新年早々のこと、職場には「三井は何人殺せば済むのか」との怒りが広がり、三池労組は「組織こそ達え三池の労働者にかわりはない」と、翌六日ただちに三井鉱山に対し、ストライキをもって抗議した。

抵抗に組織の別なし

事故発生個所は三川鉱坑底チップラー座（坑口より二千十メートル）で、同日の午後一時のことだった。

運搬工の斉藤さんはその場所で空炭函二函と実函を連結中、チップラーのフレームとつなごうとした途端炭函にはさまれ、〝左側頭骨および頭蓋底骨折、脳挫傷〟という無惨な姿となり、数分後にはもう息絶えたのだった。

チップラーで返した炭函は、三函は連結していなくては、つまり一函や二函では、同チップラーから押し出す際脱線する状況になっているので、本来ならば、狭いチップラー座の中などで、しかもシュウトの上の足場の悪い場所で炭函を連結するなどということは、とうてい考えられることではないという。

ところが、その日はエアーによって自動操作することになっている〝カー・プッシャー〟が故障していたというので、昨年十二月初めその機器を撤去し、あとトロリー電車によって炭函をチップラー座の中に押し込み、押し出すなど保安を無視した作業を押しつけられていた。

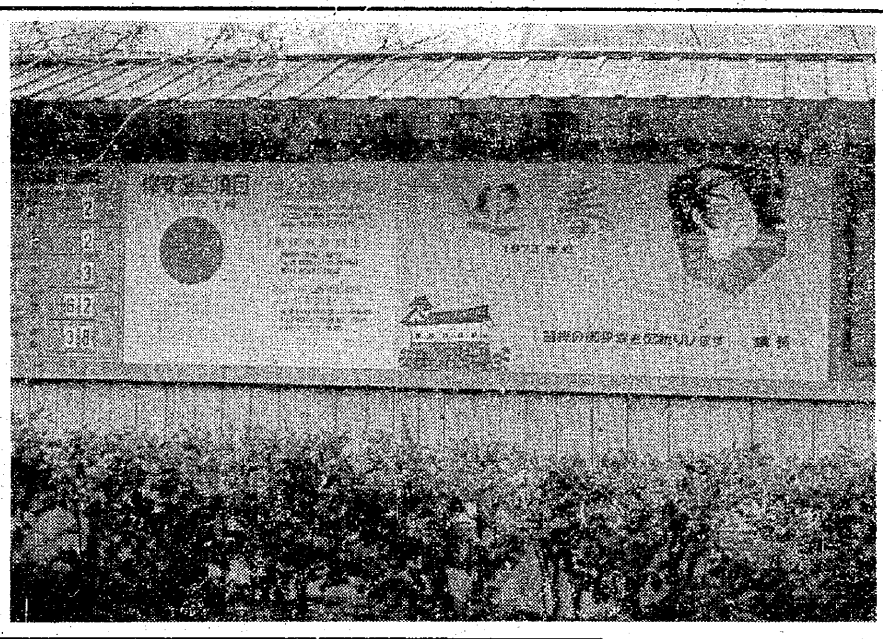
従って、人の命のことなどまったく考えず、相変らずただ石炭を出すことだけに狂奔している三井鉱山の姿勢が、おのずとそこにさらけ出されている。それは、これまでその土台骨だった石炭部門を三井鉱山から切り棄て、これを第二会社化し、しゃにむに三千人・二万トン（一日の出炭高）体制の確立を目指している〝殺人合理化〟の正体ともいえる。

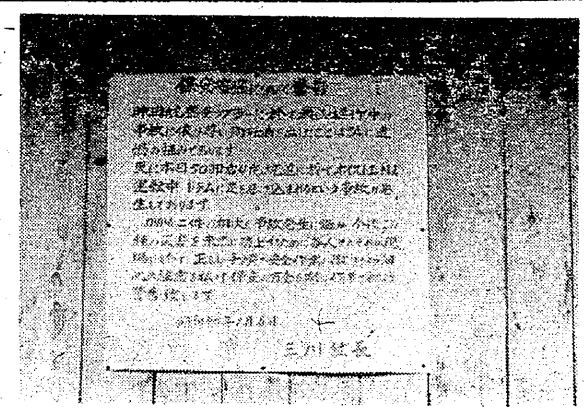
も早や、命を守る反合理化闘争に、組織の別のないことがいよいよハッキリしてきた。資本の合理化の激しさが、労働者をそこまで追いこんでいるのだ。

大爆発以後の災害死者

年度	三池	新労	転組	組夫	計
39	2	5		4	11
40	3	6		4	13
41	1	3		3	7
42	2	9	1	4	16
43	1	6	2	1	10
44		7	2		9
45		3	3	1	7
46		3		4	7
47		3	1	1	5
	9	45	9	32	85

上表で見られることは、三池労組の命を守る職場の闘いが強まつている反面、合理化の犠牲が、ついに職制にまで及んできたことで、注目すべき変化である。





斉藤さんが殺された三川鉱では、翌る日の6日ひき続き1人の仲間（新労組員）がまた右脚を切断する重傷を負つたが、上はその後掲示された鉱長警告。左はまつたく無意味な同鉱の掲示板。

三交替制を二交替制に

四山鉱で新たな合理化　仕繰工を元にもどせ

ZD運動の嵐の吹きまくる四山鉱（前村正一鉱長）で、また新たな合理化が、来たる二十一日から強行する構えのもとに提起されてきている。

申し入れによれば、これまで同鉱本層西三十五卸の西八片にあった、切羽面が六十八メートルのホーベル払を、同卸の東二片に移すことにより百四十八メートルの切羽面をもつ払にする。それには現在一方三十七人の作業員で、三方三交替で採炭してきていたのを改め、今後は一方を削り取ってその分の作業員を他の二方に配置し、二方で採炭していこう、というのである。

もともと現在では、切羽面の長さは通常百メートル＝百五十メートルであるが、同ホーベル払は断層などがあったためにやむなく六十八メートル払を行なってきたものだが、それにしてもこんどの払移動にもとづく勤務体制の大きな変化は、働く者にとって重大な問題をなげかけている。

ゆくゆくは、当然深夜作業の番方は廃止となり、一番―二番―一番のくり返しとなり、作業上の激変（たとえば始業・終業時などの混乱）、生活循環の変化、ひいては賃金面にさえハネ返りが考えられる。

三池労組（四山指導部はとくに）は、このような合理化に反対すると同時に、①かって掘進に職名変更した人びとを、もう一度払採炭に呼びもどせ。②三池労組の組合員も、シールド自走枠に配役せよ――の要求をつきつけ交渉している。

抵抗する金網工場

合理化能率増たくらむ会社

本所指導部の四分会（樺島博明分会長）はねばり強く職場闘争を続けているが、中でも金網工場（元四山鉱跡）における合理化に抵抗する闘いは注目される。

同工場には現在三池労組員の八人に、ほか新労組合員と謝礼夫（部長が直接、付近の新労組員の家庭の主婦を雇っている人びとで不思議な名称がつけられている）数人。

同工場では機械で編む方式を採用していたのを改め、今後は新型の金編製造機（ひし形製造機二台＝男二人、女三人。熔接製造機二台＝男五人、女若干人）を導入して、この機に能率を飛躍させようとねらっている。

金編は坑内の崩落よけに使う人工天盤で、その規格こそ達え、これまで一人一日七枚を通してきたのを、百枚にしようという始末。

「そんなこといわれても、われわれはいま『ハイ、そうですか』とはいえない。職種も特務Aとなっているが、工作工ではないのかハッキリせよ」

分会でつめよるのに、「一カ月ばかりで馴れるらしいから」という以外、ハッキリした回答も示されていない。

同分会では、これまでの実績を基礎に、職制の余りな要求には抵抗し続ける決意でいる。

玉名労基署聴き取り調査へ

四山指導部の職場闘争により熱中症が公傷扱いとなったことは知られているが、来たる十八～十九日玉名労働基準監督署の係員が四山鉱に来訪、実際の認定を行なうための聴き取り調査を行う。

職場新聞活動者へ　おねがい

職場新聞の編集者の皆さん、来たる二月十六日から三泊四日の日程で、三池にまなぶ集会が大牟田で開催されますが、そのため職場新聞を通して大いに交流したいと思います。全新聞がそれまでにぜひ発行していただき、やって来る人びとに配りたいと思います。そのために、常より四百枚ずつ増刷していただき、みいけ編集部までとどけていただくようお願いします。そのために要る用紙は、本部の組織部で負担しますのでぜひがんばってください。

編集部

猛吹雪が来て　すっかり冬に……

北海道　今井タツ子

昨夜来の猛吹雪で、北海道もすっかり冬になってしまいました。三池の皆様方、お元気でご活躍のことと存じます。

さて早い頃の年かん代、未納分が本日ようやく揃いましたのでお送り致します。遅くなり、本当に申しわけありません。

担当者もそれぞれに多忙な人たちなので、それに選挙もあり、ご迷惑をおかけしていました。どうぞ、事情おくみとり下さいましてお許し下さいませ。

主婦会としてとりくみのできる状態でしたので、少々のご協力ができました。とても評判がよく、品不足で、地域へことわりをするのに悲鳴をあげたことでした。写真入りの趣意書（チラシのこと）がとてもよかったのです。

もし来年もなさるのでしたら、文書（たとえばチラシ）だけ先にいただければ、荷物がくるまでに地区からの注文をとっておけると思います。そうすれば、品不足ということは解消されるものと考えます。

みなさまのご健闘を、心から祈り上げます。

×

今井さんは、札幌市北四条西十二丁目、北労会館内、全道労協事務所気付、北海道主婦会連絡協議会の事務局長として活動されている方です。ご協力に対し、心からお礼を申し上げます。今後とも、よろしくお願い致します。

おねがい

全国の仲間たちから、組合員・その家族のもとに連帯のお便りが寄せられているでしょう。それをこの欄へどうぞ！

権利闘争こそ

東京　山口高司

いま当労組に対して、業務変更にともない、二つの職場を一つに統合する。それにともない「七本コースのワンマン運行をやってもらいたい」と通告がありました。

早速、闘争体制を○印二七票、×印一票でもって確立し、七五％でスト権を確立しました。

われわれトラック運転労働者にも、合理化の名のもとに、ワンマン運行、車上荷扱いが押しつけられてきます。その結果、職業病（腰痛）が多発しています。三池の仲間が、CO闘争を個人的な要求、金銭的なものとり的な考えでなく、全労働者階級の、命と暮しを守る権利闘争として闘ってきたことを考え、資本がもうけ第一主義により、労働者を人間と考えず命を奪いさることを考え、私はいよいよ先頭に立ち、社会主義国家が生れるまで闘っていきます。

次は連絡です。トラック労働者まなぶ友の会で、九名の仲間がCO患者守る会に入会しました。皆様によろしくお伝え下さい。

×

山口さんの住所は、東京都千代田区有楽町二―七、新聞輸送労組内です。どうかお体を大切にがんばって下さい。